



# 園だより かけはし

キッドワールドこども園  
令和8年1月31日

暦の上では、春ですが、まだまだ寒さが厳しい日が続いています。園庭や運動場からは子ども達の笑い声と元気いっぱい遊ぶ姿を見ていると不思議と寒さを忘れさせてくれます。

インフルエンザ(流行性感冒)も少し落ち着いてきていますが、まだまだ安心はできません。手洗いやうがいを行って、バランスの良い食事を提供し健康管理に努めていきたいと思えます。ご家庭でも、規則正しい生活のリズムを整え子ども達が園を休むことなく登園できるようご協力をお願いいたします。

さて、2月11日(水)は、2・3・4・5歳児の生活発表会があります。生活発表会は、お子さんの一年間の育ちを見てもらう場となっています。こども園に通う中で、お子さんの成長した姿を感じ取っていただけるよう準備をすすめています。楽しみにしててください。



## 行事予定

日	曜日	園児に関すること
2	月	身体計測(3・5歳児)
3	火	豆まき
4	水	身体計測(2・4歳児)
5	木	身体計測(1歳児さくらんぼA組)
6	金	身体計測(1歳児さくらんぼB組)
11	水	建国記念の日 生活発表会(2・3・4・5歳児)
18	水	避難訓練
19	木	健康診断、身体計測(0歳児)
25	水	誕生会
26	木	修了写真撮影



## お知らせ・お願い

- ※ 2月のお弁当日は、7日(土)です。子どもさんが楽しみにしているので、忘れないようお願いいたします。
- ※ 2月の保育料の納入期間は、24日(火)・25日(水)・26日(木)の3日間です。  
(期限内に納入できない場合は、教頭の奥下までご相談ください。)



## 子どもが見る大人の世界と大人の受け止め④

キッドワールドこども園 総合園長 牧野 桂一

前回までに都合で紹介しきれなかった「⑩子どもを褒めて励ます」の項目以下の内容について、今回も順次紹介していきたいと思います。

### ⑩子どもを褒めて励ます

最初は、⑩番目になる「子どもを褒めて励ます」からはじめて行きたいと思います。

子どもを褒めて励ますことは、子どもを勇気づけ元気いっぱいにさせるとともに子どもの自己肯定感を育み、チャレンジ精神を養い子どもの成長に多くの良い影響をもたらします。ある研究によると、褒められた子どもは前向きな気持ちになり、様々な能力が向上すると報告されています。

具体的な褒め方や励まし方についてはいくつかのポイントがありますのでそれを紹介していきたいと思います。

まず、子どもを褒めるときは、結果だけではなく、プロセスを褒めることが大切です。

子どもを褒めるときに大切なことは、能力や性格を讃えるだけではなく、取り組んでいる過程での努力や挑戦した姿勢、やり方を工夫した点などに言及し、励ましてあげることです。一般的には子どものすることに対しては、目の前の結果だけに目が向いてしまうことが多いのですが、子どもにとっては、結果だけではなく努力したことや辛くても負けずに頑張った姿勢を褒めることが重要です。例えば、「縄跳びか跳べてすごいね!」というよりも、「縄跳びが跳べるようになるまでよく頑張ったね。一生懸命だね」というように、頑張って努力してきたことに焦点を当て褒めると子どもには、とても大きな励みになります。

次に大切なことは、子どもを褒める時には具体的に褒めるということです。

「すごいね」「やったね」「上手だね」といった漠然とした抽象的な褒め言葉だけでなく、何がどうすごかったのか、具体的に言葉にして伝えるのです。例えば、積み上げたブロックについて「この赤い三角を一番上に置いたのがいいね」など、目に映ったことを具体的に子ども分かるように伝えることで、子どもは自分の行動が認められたと感じることができるようになります。これは、子どもの意欲の維持継続にもつながります。同じような例には、「お片付けできてえらいね」「丁寧だね」などがあります。

また、次に大切なことは「すぐに褒める」ということです。心理学ではそれを「即時評価」ということで子どもの行動を形成するのにとても大切にしています。良い行動を見つけたら、時間を置かずその場ですぐに褒めることが大切ということです。タイミングを逃さず褒めることで、子どもは何が良かったのかをその場ですぐに理解することができるからです。

また、次に大切なことは、子どもがしてくれたことに感謝を伝えることです。

「お手伝いしてくれてありがとう」「お母さん、とっても助かったよ」というようにその場で感じた感謝の気持ちを伝えることも子どもを励ますことにとても効果的です。子どもは自分の行いがお母さんの役に立ったと感じることで、誇らしい気持ちになるのです。この感謝の気持ちはありがとうという言葉で表現されることが多いので、心を込めて子どもをしっかり見つめながら「ありがとう」というのです。外国の親子を見ていると「Thank you」という言葉がとても多いことに気づきますが、親子の信頼関係がよく伝わってきます。



つぎに大切なことは、子どもの存在そのものを褒めるということです。

「○○ちゃん大好きだよ」「生まれてきてくれてありがとう」など、子どもの存在そのものを無条件に肯定的に受け止めて褒めることも、子どもが自己有用性を感じ自己肯定感を高める上で非常に重要になります。

さらに大切なこととして、子どもが失敗した時も励ますことが必要になります。

子どもが失敗して落ち込んでいる時には、「誰にでも失敗はあるよ」「よく頑張ったね」といった励ましの言葉をかけると子どもに元気が戻ってきます。失敗してもまた頑張ろうと思える気持ちを育むことができます。英語では、失敗したときに「Good job」つまり「いい仕事をしたね」といって励ましています。失敗は人間にとってはいい仕事なのです。

この「褒めて励ます上手な声かけ」とかわって、上手な叱り方についても紹介しておきたいと思います。子どもを叱るということは、社会に適応していくために必要な知識や技術を教えるために必要なことであり、罰を与えて子どもの行動をコントロールするために行うものではありません。

子育てにおいて、上手に叱るというのは、上手に褒めて励ますことよりも難しい面も多いといえます。特に子どもが言うことを聞かないときや癩癩を起こしている時は、親もイライラしてしまって、つい感情的な対応をしてしまうこともあります。そのようなことを考えて、褒めて励ますのとおなじように子どもの成長につながるように叱るためには、どのような叱り方をすればよいかということには次のような4つのポイントがあるといわれています。

- ①「ダメ」「違う」ということをできるだけ使わないようにする。
- ②結果ではなく努力やプロセスに目を向けるようにする。
- ③好ましくない行動に対してはその理由をきちんと説明するようにする。
- ④叱っている親の気持ちを正直に子ども伝えるようにする。

というようなことです。叱る時も褒めて励ます時と本質的に共通する部分が多く感じられると思います。

今回もまた、紙面の都合で紹介しようと思っていた項目を全て紹介することはできませんでしたので、次回に、⑪一人一人の違いに応じた対応をする ⑫子どものしていることに驚きを持つ ⑬あるがままを受け入れる ⑭明るくてほほ笑みの多い保育者 ⑮ユーモアに富んだ保育者 ⑯子どもの名前を呼んであげる ⑰人として美しくなどについて紹介していきたいと思います。

#### <エッセイについて>

今回のエッセイは⑩子どもを褒めて励ますについて具体的な声かけの例の紹介がありました。子どもたちを褒める時に、結果だけを褒めるのではなく、プロセスが重要でポイントをおさえて褒めることの大切さを改めて感じました。

子どもの良さを最大限に引き出していくには、子どものありのままを受け止め愛をもって関わることだと思います。働きながら子育てしていると仕事の疲れで気持ちに余裕がもてないことがあるかと思います。そういう時に、つい子どもを叱ってしまいがちになりますがこのエッセイを思い返してみてください。